

令和4年10月25日

西部農林水産振興センター益田農業部

標 題	所得向上に向けて一年一作からの脱却～中山間地域で二毛作への挑戦～
-----	----------------------------------

(ダイジェスト)

吉賀町では飼料用イネ（以下WCS）として「きぬむすめ」が多く作付けされています。一方で、推進中の水田園芸キャベツの同町における定植の晩限は、WCSの作付期間と被っているため、土地利用は一年一作になっていました。そこで、町内の集落営農法人にWCS専用の極早生品種「つきはやか」を提案し、WCS刈取後にキャベツの定植が行えるような二毛作体系に挑戦しました。

吉賀町のWCSは主に「きぬむすめ」が作付けされており、8月下旬～9月上旬が刈取時期です。農業部としては、WCSの他に高収益作物として水田園芸キャベツを推進しており、作付面積の拡大とともに生産者の所得向上のため、二毛作による水田の有効活用を勧めたいところです。しかしながら、同町におけるキャベツ定植の晩限は8月15日頃で、「きぬむすめ」の作付期間と被るため、キャベツのほ場準備が行えません。

そこで、町内の農事組合法人ごんごんじいの郷に、今年度は「きぬむすめ」より刈取時期の早いWCS専用の極早生品種「つきはやか」の作付けの提案を行い、後作にキャベツの定植が可能か検証を行いました。

令和4年度の実際の作業スケジュール等は以下の表のとおりとなりました。

	4月30日	7月16日	7月26日	7月28日	8月5日	8月8日
つきはやか	定植	—	出穂	刈取	—	—
キャベツ	—	播種	—	稲株細断	ほ場畝立て	定植

「つきはやか」は7月26日に収穫期を迎え7月28日に刈取を行いました。収穫後直後の早刈りとなったものの、WCS専用品種ということもあり草丈及び茎数は高水準で、ほ場収量は1,500kg/10a（5ロール/10a）と標準的な収量を確保できました。また、後作のキャベツはほ場準備期間を十分に確保することができたため、余裕を持って定植をすることができました。

今回の検証により、吉賀町でのWCS～キャベツの二毛作の可能性を見いだすことができました。

今後は、高収益作物の栽培による耕種部門の所得向上に加え、畜産側の安定した飼料確保の期待に応えられるよう、研修会等を通じて地域への波及や支援を行っていく予定です。



■写真 同一ほ場の様子

(左つきはやか：7月21日撮影)

(右キャベツ：8月26日撮影)